

8月25日

田舎暮らしの豊かさ おすそわけ

木 次町湯村の槻之屋伝習館で田舎ツーリズムの研修会が行われました。しまね田舎ツーリズムは、田舎暮らしの豊かさを都市住民の方々に「おすそわけ」しようとする活動です。農林水産業や伝統文化、観光との連携を図りながら地域の誇りを大切にし、新たなつながり・交流をもたらそうとするものです。

この日は雲南市内外の田舎ツーリズム実践者や田舎ツーリズムに関心のある団体などから約30人が参加。大田市で山村留学を実践されている矢田千里氏が活動状況を報告され、意見交換が行われました。その後、槻之屋振興会女性グループ手作りの郷土料理を食べながらお互いの活動などについて話し合い、交流を深めました。



8月21~25日

「ちち☆ばす」のメンバーが 市内で幸運探し

一 橋大学や津山高専の学生ら「地域発地球行きパス（愛称「ちち☆ばす」）のメンバー10人が雲南市を訪れ、吉田町と掛合町を活動拠点に人々との交流や自然体験、ボランティア活動を行いながら、都会で生活する若者の視点で雲南市の魅力を探りました。滞在最終日となる24日、掛合公民館で「幸運さがし」発表会と題した活動報告会を開催。学生らはまず吉田町と掛合町の魅力を発表。地域の強い絆や人の心の豊かさ、癒しではなく刺激を受けるほどの豊かな自然やふるさとの原風景、ストーリー性に富んだ鉄の歴史、新鮮で安価な食材などを紹介しました。

さらに、学生たちは、市民を対象とした市内ホームステイや互いの町の良さを発表しあう他已紹介サミットを行うことで、市民同士が市の魅力を再確認し、6町間の融和を図る「近くに行きたいプロジェクト」や、市外の若者たちと協同で行う「幸運マップの作成」といった地域活性化策を提案してくれました。

発表後、参加した市民からも「市民自らが魅力を発信できるホームステイのアイデアは、とても参考になった」「市民としても、できることから少しずつ取り組みを進め、市の一体感の醸成に努めたい」といった感想や意見が出されました。



8月25日

雲南市交流 盆踊り大会

加 茂町の赤川だんだん広場で雲南市交流盆踊り大会が開催され、各町の盆踊り保存会の会員らが盆踊りを通じて交流を深めました。

合併後の市民の交流と親睦を深めるとともに、文化伝承活動による地域おこしを目的に、雲南市盆踊り保存会連絡協議会が主催する大会で、今回が2回目です。

この日は、市内から盆踊りの伝承・保存活動に取り組む5団体が参加。黄色や緑色など揃いの浴衣を身にまとった各団体が「古代寺踊り」「関の五本松音頭」などの踊りを披露しました。最後は、参加者全員による「総踊り」。参加団体のほか、愛好家や地元住民らも加わり、地域を越えた交流の輪を広げました。



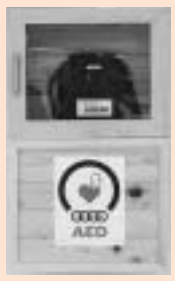
8月25日

佐世公民館にAEDを設置

佐 世地区福祉委員会は、地域活動中に体調異変を起こし心肺停止状態に陥った際の救命対策としてAED（自動対外式除細動器）を購入し、佐世公民館の玄関横に設置しました。

AEDは、心臓突然死の原因となる心臓の心室細動（心臓がブルブルと細かくふるえる）が発生した際に、電気ショックを与えて心臓の動きを取り戻すための機器で、平成16年7月から一般の市民でも使えるようになりました。

この日は、佐世地区体協と佐世地区福祉委員会の主催により雲南消防署から講師を招いて普通救命講習会が開催されました。自治会や体協の関係者など約60人が参加し、心肺蘇生法やAEDの使用法などについて熱心に受講しました。



佐世公民館は佐世小学校と隣接し、年間を通していろいろな活動が行われており、今後は万が一に備えることができます。

9月4~5日

異文化の草の根交流

島 根大学の留学生ら10人が木次町を訪れ、地元の中学生や高齢者グループと交流しました（木次町国際交流協会の主催）。

初日に訪れた木次中学校では、団子づくり、書道、出雲弁カルタ取りに挑戦しました。団子づくりでは、中学生と一緒に調理実習。日本の月見の風習が紹介され、満月の中でウサギが餅をついているように見ると聞いた留学生は、母国で言い伝えられる見え方の違いに驚いていました。

2日目の午後は、高齢者グループ「ふだんの歌の会」と童謡「さくら」や「ふるさと」を歌い、盆踊りを踊りました。見よう見まねで踊る留学生に、周りから「うまい、うまい」と声があがり、大いに盛り上がりました。

参加した留学生の一人は「母国にはない珍しいものをたくさん体験できて良かった」と、充実した2日間を振り返っていました。



9月8日

オロチ伝説漂う 夕刻の斐伊川で

ヤ マタノオロチ伝説が残る斐伊川岸を舞台に「斐伊川夕刻篝（かがり）火舞」が開かれ、「大蛇退治」の舞が訪れた約千人の観客を魅了しました。

深野神楽保存会などを中心とした実行委員会が主催したもので、深野神楽子ども教室（吉田町）、大土地神楽保存会（出雲市）、石見神楽亀山社中（浜田市）、深野神楽保存会（吉田町）の4団体が公演。日ごろから神楽人としての自覚を持って伝承活動に励み、アメリカ、イギリスなどでの海外公演も経験するなど、実力のある各団体が「大蛇退治」などの演目を迫力たっぷりに披露しました。

観客の一人が「オロチ伝説漂う斐伊川をバックに舞われる神楽はとても趣がある」と話したように、斐伊川を背景に篝火に照らされるながら舞われるすばらしい神楽に惜しい拍手が送られていました。

